

【ポスター発表】

子育て支援活動に関する一考察**—子育て支援サークルほっとく—かんに着目して—**

○専門学校 共生館国際福祉医療カレッジ 氏名 徳安 優一 (会員番号 6713)

キーワード：子育て支援、子育て相談、子育て支援プログラム

1. 研究目的

近年、急速な少子化が進み、育児不安や育児の孤立化が問題視されている。また、このような孤立化しつつある母親たちに子育て仲間を作り、子育て不安の軽減と改称を図る方策の一つとして子育てサークルが注目されている⁽¹⁾。なぜなら、「近所に話し相手や子育て仲間、相談相手がいること、乳幼児との接触経験があることなどがポジティブな子育て感情を生み出すことにつながり、逆に、話す相手がいなかったり、子育て仲間が少なかったりする母親は、ネガティブな子育て感情をもつ傾向にある⁽¹⁾」と、子育てを行っていくなかで、話し相手や相談相手がいる子育て環境があることが、より良い子育て意識の形成に繋がるという効果も認められている。

しかし、一方では、子育てサークルの活動内容、運営方法の開発、支援が必要である⁽²⁾ことも述べられている。

そこで、本研究では、月に一度2時間程度、約10組の3歳未満の子どもを抱える親を対象に、保育士や社会福祉士等の福祉専門職者が、座談会形式にて子育てに関する悩み相談を行っている、子育て支援サークル「ほっとく—かん」の活動に着目し、そのほっとく—かんの参加者の意識等を探ることで、今後の子育て支援活動及び、子育て支援サークルの運営のあり方を考察する。

2. 研究の視点および方法

ほっとく—かんの今度の運営、及び、子育て支援活動のあり方の研究のために、2011年11月17日に開催されたほっとく—かん終了後に、その場で参加者に質問紙にて調査を行った。

回答方法は、無記名にて5肢択一の単一回答法及び自由記述にて回答して頂いた。

質問項目は、子どもの数、日常的な就業時間、同居人や子育てを行ってくれる人、子育てに関する不安や悩みについて、相談相手について、ほっとく—かんの効果について、また、今後のほっとく—かんの活動に関する要望等を含めた。

3. 倫理的配慮

調査実施時に、口頭にて、本調査の趣旨・目的、本調査内容、ほっとく—かんの今後の活動及び、研究への使用以外では使用しないこと、また、個人が特定されることが無いように質問紙を管理及び配慮することを説明し、了承頂いた。併せて、質問紙にも、同内容

を記載し、無記名にて実施した。

また、「ほっとくーかん」の開催者及び関係者にも、本研究の趣旨及び、質問紙等を説明し、本研究への協力をいただいた。

4. 研究結果

10名の参加者へ調査を行い、10名すべての参加者から回答を得ることができた。また、性別は、すべて女性(母親)であった。相談者1人あたりの子どもは、平均して2人であり、今回の参加者全員が、現在勤めていない、または、育児休業中であった。パートナーの就業に関しては、全員がフルタイムで勤めていた。同居人及び、同居人で子育てを一緒に行ってくれる方の質問項目に関しては、全ての回答者が、夫が手伝ってくれているという状況であることが分かった。また、子育てに関する悩みや不安があるかという質問項目に関しては、参加者の70%が、「ある」と回答した。子育てに関する相談を誰に行うかという質問項目に関しては、参加者の90%が、配偶者や自分の両親、友人・知人に行い、参加者の60%が、保育士や幼稚園教諭の先生などの専門職者、また、参加者の30%が自分の兄弟姉妹であることが分かった。ほっとくーかんに参加して良かったかという質問項目に関しては、70%の回答者が、とても良かった30%の回答者が良かったと回答し、今回の調査から、ほっとくーかんの活動が、子育て支援として効果があることが分かった。

5. 考察

すべての回答者が、子育てや相談はパートナーに行っているが、併せて、回答者の多くは、保育士等の専門職者や、友人・知人へ相談しながら子育てを行っていること。また、すべての回答者が、ほっとくーかんに参加して良かったと感じていることが分かった。

これらの結果から、現在、多くの子育て支援活動や、子育てサークルなどがあり、地域の実情や相談内容に応じて子育て支援の在り方を工夫しているが、ほっとくーかんの子育て支援活動のように、保育士等の専門職が参加しつつ、子育て仲間である友人や知人が同席し、座談会形式という話しやすい雰囲気を作ることで、参加しやすく、また、語りやすい子育て支援サークルの活動ができることが分かった。また、今後取り組んでほしい内容として、給食や栄養のある食事のメニューに対する希望があり、栄養士等の専門職も含めながら支援していく必要があることも課題として検討される。

6. 引用文献

- (1)横川和章 小田和子 子育てサークルの参加者の意識の変化に関する研究(1) 日本教育心理学会総会発表論文集(49), 413, 2007—08
- (2)小田和子 横川和章 子育てサークルの参加者の意識の変化に関する研究(2) 日本教育心理学会総会発表論文集(49), 414, 2007—08